(第1面)

特別管理産業廃棄物処理計画書

平成29年 5月 22日

愛知県知事 殿

提出者 〒550-0013
 住 所 大阪府大阪市西区新町1-33-8
 氏 名 エス・エス・アルミ株式会社
 代表取締役社長 北山 悟
 電話番号 06-6532-3310

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条の2第10項の規定に基づき、特別管理産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	エス・エス・アルミ株式会社 新城工場
事業場の所在地	愛知県新城市有海字輸出2-19
計画期間	平成29年 4月 1日～平成30年 3月31日

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

① 事業の種類	23：非鉄金属製造業
② 事業の規模	平成28年度出荷額：102億円
③ 従業員数	54名
④ 特別管理産業廃棄物の一連の処理の工程	アルミニウム合金製造 ・ 特定有害ばいじん 前炉への原料投入・溶解⇒排ガス⇒炉前集塵機⇒炉前系ばいじん 燃焼炉への原料投入・溶解⇒排ガス⇒燃焼系集塵機⇒燃焼系ばいじん 溶解中の塩素処理⇒排ガス⇒塩素系集塵機⇒燃焼系塩素系ばいじん ・ 特定有害廃アルカリ 溶解中の塩素処理⇒排ガス⇒塩素系集塵機⇒集塵機排ガス⇒ 塩素排ガス除害設備(苛性ソーダ溶液噴霧)⇒pH自動管理⇒廃アルカリ

(日本工業規格 A列4番)

(第2面)

特別管理産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項			
(管理体制図) 製造部門安全環境対策推進室 工場長 (廃棄物処理総括責任者) 工務課長 産業廃棄物管理責任者 特別管理産業廃棄物管理責任者 産業廃棄物発生施設技術管理者 工務課員 産業廃棄物発生施設技術管理者			
特別管理産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
① 現状	【前年度 (平成 28年度) 実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	特定有害ばいじん	特定有害廃アルカリ
	排 出 量	107.6 t	46.9 t
	(これまでに実施した取組) ・ 特定有害ばいじん 噴霧溶液のpH制御や比重管理を最適化することを継続し、また、 噴霧溶液の供給方法の見直しを実施し煤塵の低減を図った。 ・ 特定有害廃アルカリ 設備のトラブル発生により廃液の発生の抑制が図れなかった。		
② 計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	特定有害ばいじん	特定有害廃アルカリ
	排 出 量	150 t	10 t
	(今後実施する予定の取組) 特定有害ばいじん対策 ・ 増産により、比例して煤塵の発生量が増えると思われるが、噴霧 溶液のpH制御や比重管理をさらに最適化することを継続し、ph計の 維持管理徹底で煤塵発生量の抑制を図る 特定有害廃アルカリ対策 ・ 苛性ソーダ使用量の最適化による廃アルカリ発生量の抑制を図る		
特別管理産業廃棄物の分別に関する事項			
① 現状	(分別している特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・ 特定有害ばいじんの性状別に保管場所を区分し、他の廃棄物とは 分別されている。		
② 計画	(今後分別する予定の特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関す る取組) ・ 現状の方法を継続する。		

(第3面)

自ら行う特別管理産業廃棄物の再生利用に関する事項			
① 現状	【前年度（平成 28年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	特定有害ばいじん	
	自ら再生利用を行った特別管理産業廃棄物の量	0 t	
	(これまでに実施した取組) ・ 特になし		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	特定有害ばいじん	
	自ら再生利用を行う特別管理産業廃棄物の量	0 t	
	(今後実施する予定の取組) ・ 特になし		
自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項			
① 現状	【前年度（平成 28年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	特定有害ばいじん	
	自ら熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量	0 t	
	自ら中間処理により減量した特別管理産業廃棄物の量	0 t	
(これまでに実施した取組) ・ 特になし			
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	特定有害ばいじん	
	自ら熱回収を行う特別管理産業廃棄物の量	0 t	
	自ら中間処理により減量する特別管理産業廃棄物の量	0 t	
(今後実施する予定の取組) ・ 特になし			

自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項			
① 現状	【前年度（平成 28年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	特定有害ばいじん	
	自ら埋立処分を行った特別管理産業廃棄物の量	0 t	
	(これまでに実施した取組) ・特になし		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	特定有害ばいじん	
	自ら埋立処分を行う特別管理産業廃棄物の量	0 t	
	(今後実施する予定の取組) ・特になし		
特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
① 現状	【前年度（平成 28年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	特定有害ばいじん	特定有害廃アルカリ
	全処理委託量	107.6 t	46.9 t
	優良認定処理業者への処理委託量	0 t	0 t
	再生利用業者への処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組) ・特定有害ばいじん 噴霧溶液のpH制御や比重管理を最適化することを継続し、また、噴霧溶液の供給方法の見直しを実施し煤塵の低減を図った。 ・特定有害廃アルカリ 設備のトラブル発生により廃液の発生の抑制が図れなかった。		

②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	特定有害ばいじん	特定有害廃アルカリ
	全処理委託量	150 t	10 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	0 t	0 t
	再生利用業者への 処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者への 処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0 t	0 t
<p>(今後実施する予定の取組)</p> <p>特定有害ばいじん対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・増産により、比例して煤塵の発生量が増えると思われるが、噴霧溶液のpH制御や比重管理をさらに最適化することを継続し、ph計の維持管理徹底で煤塵発生量の抑制を図る <p>特定有害廃アルカリ対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・苛性ソーダ使用量の最適化と、設備メンテナンス強化により廃アルカリ発生量の抑制を図る 			
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の特別管理産業廃棄物の発生量が50トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる特別管理産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、埋立処分した量を記入すること。なお、中間処理を行うことにより特別管理産業廃棄物に該当しなくなった産業廃棄物を海洋投入処分するときは、その量も含めて記入すること。
- 6 「特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の14第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 7 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、特別管理産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 8 ※欄は記入しないこと。